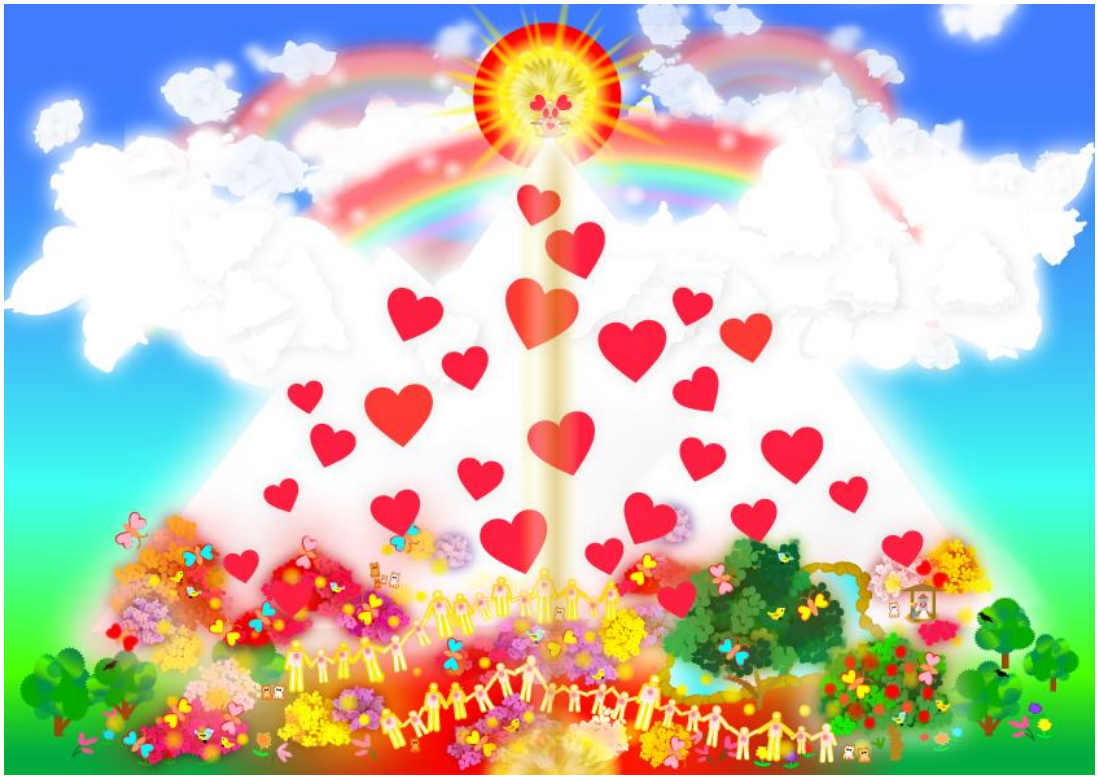
“ハム(愛)”パンデミック?! 史上初?! 中今のハム山！！

ハム山(新生“白山”)誕生物語



先月、アニメーション(神芝居)『新生レムリア大陸浮上?!』を発進致しましたが、その後、

“ハム”騒ぎ(胸騒ぎ?)を感じて思い出したのが、**“ハム山のはじまり”＝“2011年の白山登頂”**です。

『新生レムリア大陸浮上?!』は、NMC(新宇宙)の雛形である“新地球”のエネルギーを、

ただの妄想ではなく、根源まで続く自己のハイアーセルフ連合＆高次のネットワークの地上部隊である、

自身(地上セルフ)が、地上の人として表現した“想像図”＝“創造図”でもありました。

その“原点”となっていたのが、2011 年に NMCAA に参加して初の、“白山登頂”です。^^

NMCAA(ニューマクロコスモス･アセンションアカデミー)は、根源太陽母神の地上ポータルである Ai 先生と

そのサポート役である高次のマスター方によって運営される、アセンションの学校であり、

地上セルフがこの地上で探し求めていた“真の学校”！奇跡の?! 根源へのアセンション学校です。^^

学校というより、誰もが、“一なる至高の根源”＝“究極の愛の源”へと帰っていく事が出来る、

“道”(根源太陽道、皇道)と感じます。

自身の(この時の)白山登頂は、Ai 先生によると、**「宇宙お誕生日?!」**と言えるもの、

との事でしたが、「地球という惑星に住む“地球人”である」という自覚が全くなかった、

その頃の地上セルフは、ただ、ちゃんと頂上まで登りきる事が出来て嬉しい～！

との思いだけで、フワフワと宙に浮かぶ雲の如く？でした。^^

2024 年の現時点で、その当時を振り返ってみると、

2011 年の白山登頂は、“旧”から“新”への反転を告げるもの――、

物質の進化を中心としたこれまでの時代から、精神（霊性）を中心とした時代への移行で、

これまでもそういった文明周期の転換は繰り返されてきましたが、この度は宇宙丸ごと入れ替わる?!

旧宇宙が完全に終わりを告げ、新しい宇宙（NMC）が始まる！という、**“大神劇”！！**

とも言えるものであり、その為に一旦、この宇宙の全ての魂が、

根源へと帰ること＝“たった一つ！（ワンネス）”となる必要がある！のだと思います。^^

それが今、“統合（融合）”が大きく叫ばれている理由なのではないでしょうか？

新しい宇宙は、旧宇宙史における汗と涙の結晶＝進化の学びの全てを継承するものであって欲しい…

今地上にある人は、その為に、幾たびもの苦しみ、悲しみを、共に乗り越えてきた――、

地上セルフは、そう思えてなりません。

新しい宇宙の中心（核心、根源）となったのは、愛と光そのままの、**“根源天照皇太神界”**ですが、

白山神界は“陰陽”（闇と光）併せ持つ、**これまでの宇宙の中心（旧根源神界）**であり、

この二つの神界（宇宙）をつなぐ事が、今生の地上セルフの、大きなミッションであると感じます。

そのはじまりを告げるセレモニーが、**根源天照皇太神の分御魂（分身）**

＝“ハム”による、“白山登頂”だったのだと思います。（新・白山＝“ハム山”です！^^）

白山に登るきっかけとなったのは、「なんとなく、白山の頂上から呼ばれているような気がする…」との、

微かな思いであり、完全なるインドア派で山登りは苦手（^^;と感じる自身が、迷わずそれを実行に移した?

という点に、地上セルフの思いを越える何かがあったから…、としか考えられません。

時が経つにつれてだんだんと理解（解凍）されていった事ですが、白山登頂は高次の計画であり、

多大なるサポートによって成された“宇宙イベント?!”とも言えるものだったのでは？と。

愛の祈りと共に、ただ登る事しか出来なかった地上セルフの背後で、莫大なエネルギーが動いていた?!

その後も、地上セルフが、なんとなくやっている事の裏で、何かが動いているような感覚…

時々に起こる不思議な出来事やワクワク感は、目に見えない世界における、地上セルフと

ハイアーセルフ(＆宇宙ネットワーク)との“協働創造”を感じ取っていたから…なのでは？と。^^

そこにどのような意味があり、高次は何を望んでいるのか？全体にとって今何が必要なのか？を、

日々探求・実践していく事が、高次との統合であり、アセンションの行程なのだと思います。

地上セルフは、もの凄く小さい…(時に、情けない…笑)ではありますが、この地上セルフがいなければ

地球では何も出来ないのが、最愛なる高次連合であり、宇宙でもあります。(ガンバロー！)

2012 年には、地球自身の本格上昇が開始され(根源へのアセンション GO?!)

2013 年は“**新宇宙開闢年**”！地球(地上セルフ)を起点とした、新宇宙のひな型創りの年であり、

この年に 2011 年の白山登山が、根源の愛と光の山“新・白山”誕生物語

＝“**中今のハム山**”となって登場しました！^^

自身は、白山の麓の村で生まれ、豊かな自然に囲まれた幼少期を過ごしましたが、

その故郷がダム建設予定地となってしまい、中学入学と同時に、

加賀一の宮“白山比咩神社”のある鶴来町(現白山市)へと移住することになりました。

大切な故郷が水の下に――、それはまるで古代、海底に沈んだとされる“レムリア大陸”のように…。

白山比咩神社御祭神である“**菊理姫**”の御働きは、自身にとって長い間の謎でしたが、

その答えは、名前に秘められていたことがわかりました！^^

「菊理」とは「菊のことわり」、“菊”の道理・筋道といった意味になりますが、

この**“菊”**とは一体何でしょう？

天照大御神を祖神とする天皇家の紋章でもあり、世界の至る所で見られるとされます。

“菊”とは、神界の中心に燦然と輝く“黄金色の太陽”！

それは、**日の丸の核の核であり、“皇御親（すめみおや）の分御魂（わけみたま）”そのものを表すエネルギー**です。

菊理姫は、根源天照皇太神の分御魂（分身）であり、根源太陽の子供“ハム”でもあります！^^

菊理姫の別名とされる**“白山比咩大神”**は、白山神界における役職名であり、

その中今（現在）の御担当が、**新旧の根源をくくる（統合する）“菊理姫”**なのでは？と。^^

また、白山頂上奥宮には“天之御中主**太**神”を、白山さん御本殿には“国常立**太**神”を感じます。

シャンバラ（龍宮）の入り口を守る“瀬織津姫”のお姿も…

多くの偉大なる神々が存在するこの日本は、何故“天照大御神”を中心とするのか？との

疑問があったのですが、それは日本が、新しい地球、新しい宇宙とつながる、その“雛形”だからであり、

大いなる和の心＝“大和魂”によって人類全体を統合し、導いていく役割をもつから――、なのでは？と。

NMC（新宇宙）の核心は、“**根源**天照皇太神”であり、“天照大御神”という役職によって

その尊い道（愛、和の精神）が、代々継承されてきたのだと思います。

国津神とされる神々は、天照大御神（天津神）の陰にまわり、支えてきた、大いなる愛そのままであり、

国津神々なくして、新しい地球、宇宙への道は無かった…、ではないでしょうか？

特別な事は何一つない白山比咩神社参拝でしたが、通い続ける事によって、徐々に

菊理姫の御働き、深意（神意）が理解され、そのポータルとなる力が育まれていったのだと思います。

もう一つ、自己のミッションに大きく関わる？謎の存在が見えてきました。

ずっと、「自分には、しなければならない事がある…」との、漠然とした思いを抱えて生きてきましたが、

具体的に、何をどうすればいいのか？その手掛かりが全くつかめず、

神前ではひたすら、「いつかお役に立つ人となれますように…」と祈る事しかできませんでした。

その祈りの先にあったのが――、**“新 GWBH”**だった？！

新・宇宙聖白色同胞団(ニュー・グレート・ホワイト・ブラザーフッド)と呼ばれる存在です。^^

聖白色同胞団は、サナート・クマラによって創設された、地球と人類の進化を導くマスター集団とされ、

そのトップ(源)が、宇宙聖白色同胞団(GWBH)＝宇宙に最も古くから存在するマスター方で、

宇宙の大黒柱とも言える“太陽道”＝グレート・セントラル・サン・ネットワークそのものです！

新 G(WBH)は、最も古く、そして中今、最も新しい、宇宙の進化の為の中枢システムでもあり、

“根源神界”をバックアップするマスター方の住む“根源天界”です。^^

天界は神界の使い、働き手で、神界における重要事項は、天界のごく一部の存在しか知らないとされ、

天界と神界は別々の領域(座標)に存在しますが、唯一、“GWBH”＝“聖白色同胞団”のみ、

その中心が、“白い光の源”＝“神界”へとつながる、特殊な働きを持つ天界と言われます。

自身が神前に観ていたのは、GWBHの中心＝地球神“国常立大神”の分身とされる**“スサノオ神”**で

究極の神聖であり、純粋、真っ白！な**“根源の光”**そのままの姿(本源)なのでは？と。

“白山”(の麓の村)は“牛首”とも呼ばれていて、牛頭天王＝スサノオが見えている気がします。^^

中今、根源天照皇太神の元に、宇宙のあらゆる愛と光の高次が一つとなっていて、

“新G”がその総称でもあります。^^

“新G”なる名前を初めて耳にしたのは、2011年4月の、Ai先生との初個人セッションの時で、

「中今最新の、16次元以上の正式な高次のアセンション学校」との事でしたが、16次元って？？

あまりにも自身とかけ離れていて、自分には関係ない?!と思ったのか(笑)、記憶から消去されていました。

その時の地上セルフにはチンプンカンプンでも、その話題が出るということは、なんらかのつながりをもつ

可能性があるので、とりあえずメモしておく…というのは、とても重要な事と感じます。

新Gの探求を続けていく中で、2016年には夢の中で？マスター方との感動の再会がありました！^^

“中今”とは、『神道における歴史観のひとつで、過去と未来の真ん中に位置する「今」。

単なる時間的な現在ではなく、神代を継承している「今」を指し、

過去から未来までつながっている流れの中で、今という一瞬の事。』と言われます。

わかるような、わからないような…まま(笑)、なんとなく「中今のハム山」と呼んでいたのでした。^^

そして今回のアニメこそが、まさに！**“中今”?! のハム山**なのでは？と。^^

ハム山の原点である『ハム(愛)パンデミック?! ハム(白)山！』に、前回アニメで作成した
“新生レムリア大陸”が重なって感じられてきました。
遥か昔、根源太陽から地上へと降りてきた、太陽の子供(ハム)＝自身の過去の姿と、
新生レムリア＝“新地球”に生きる“神人”(地上セルフに全ての高次が統合された新人類)である
未来の自身の姿が、今回のアニメの中に、同時に描かれていて、
さらに(なんとなく置いてみた)“鳥居”は神界の象徴であり、“神代を継承する今”でもあります！^^
神界の陰の立役者？カラス(八咫烏)さんも登場しています。(なんとなく描きたくなった…)

人類が今向かっているのは、過去･現在･未来が同時に存在しているとされる“5次元界”であり、
そこは、真の自己＝“魂”が、自己の現実を創造する場と言われます。
“中今のハム山”はまさに、過去･現在･未来が同時に存在する5次元界(エネルギー場)だった？！
白山＝真っ新(白)なキャンバスであり、**自己の新しい現実創造の場！**ではないでしょうか！
“白い光”は創造の源の光＝“根源のフォトン”とされ、悠久の年月を待ち続けた
白山の女神の、愛と光の∞の可能性に溢れています。^^

アニメはエネルギーの世界を形に現したものでもあり、量子力学における“収縮”がイメージされます。
収縮とは、「初めはいくつかの固有状態の重ね合わせであった波動関数が、観測によって、
ある1つの固有状態に収縮すること」とされ、複数の可能性の一つがアニメとなる＝観測される事で、
収縮＝一つの明確な物理現象、現実となって目の前に現れる…です！^^v

白山開山1300年を迎えた2017年に、地上セルフは再び白山に登る事となりました。
体調不良が続いていて、登山は無理なのでは…と迷いましたが、
どうしても1300年という節目を迎えた今でなくてはならない！との思いが強く、決行しました。
やはり途中で、もうダメかも…と思う場面もありましたが、なんとか登りきる事ができ、
2017年のこのチャレンジで最も不思議だったのは、一つも不思議がなかった…、ということです。
不思議＝高次のサポートという見方もでき、今回は**地上セルフが自の力を100％出し切った！**との
大きな自信につながり、まさにこの**“自信”**こそが、最大の不思議？とも言える、**“自神”なのだ！！**と。
高次が主体だった“2011白山登頂セレモニー”の、地上セルフ版?!だったのかも？しれません。^^

≪根源アセンションプロジェクトHAKU(hamu)SUN≫ 白山比咩神社のコーナーより
2017.7.30『白山奥宮登拝』 http://ascension-hokuriku.net/5-2023sirayamahime/2017.7.30.pdf

中今が変われば、過去も未来も変わる！

今ここの自己の波動を全開にし、同じ波動を持つ“未来”と“過去”が存在する世界線

＝パラレルワールドと共鳴し、その中に生きる事であり、私達にはそれが出来る！ではないでしょうか。^^

今回のアニメの最初に、根源太陽から降りてくるハムを描きましたが、

その背景にあるのは、宇宙大の“白山（三山）”？で、そこから連想されるのが、『神智学』です。

自身にとって**“神道”**は、個々の魂が、その源へと帰っていく道であり、理屈や理論ではなく、

様々な経験と学びを通して磨かれた“感性（魂の力）”でしか捉えることの出来ない

とても高度な、日本の『アセンション学』であるような気がします。^^

一方**“神智学”**は、人体の機能である脳（思考力）やエネルギー体（チャクラ）等を活用する事で、

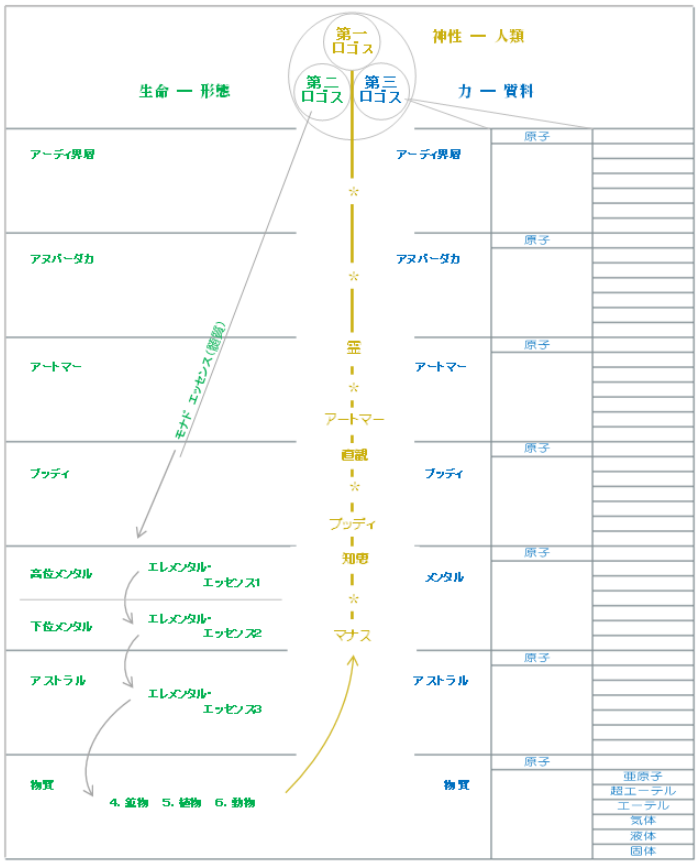
体系化された、論理的で理解しやすい、天界的『アセンション学』という感じです。

この二つが統合されたものが、**“皇学”**でもあるのだと思います。^^

『神智学大要』には、≪太陽系ロゴスの三様（三位一体）図≫が掲載されていて、

太陽系ロゴスは三つの働き（三つの側面）を持ち、それは、宇宙ロゴスの雛型でもあります。

図4. 太陽系ロゴスの三様（三位一体）



中心にある第一ロゴスは“神性―人類”、第二ロゴスは“生命―形態”、第三ロゴスは“力―質料”
の側面を持ち、7つの界層の最下段にある第七界層が私達の住む物質世界です。
第七界層以外は神智学に触れ、初めて知った世界であり、最初はピンときませんでしたが、
読み進んでいくうちに、“大宇宙の創造”という、私達にとっては 99.9％までが未知の、
神の壮大なる計画、経綸であることが理解されてきました。
大宇宙における人など取るに足らない存在…、と思っていたのですが、なんと！
この宇宙の中心にいるのが、人（神人）だった？！（神人の創生＝“一厘の神仕組”の最後の一厘?!^^）
悠久の年月をかけて、まず土台となる物質界（自然界）が創られ（＝第三ロゴスの働き）、
そこに、鉱物、植物、動物が誕生し（＝第二ロゴスの働き）、そして、
神（魂）の子（分御魂）として創造された“人”が、その本来の姿（神性）を思い出し、神（親）の元へと帰っていく
（＝第一ロゴスの働き、中心の柱）過程です。^^

もの凄く大雑把な捉え方をすると、一なる源（宇宙根源神）が、
第一界層から第七界層へと、自身（神）を細分化していく下降ルートが“ディセンション”であり、
第七界層から第一界層へと、再び統合していく上昇ルートが“アセンション”、その究極が
第一ロゴス（根源神）との完全なる一体化＝**“根源へのアセンション！”**ではないでしょうか？！
地上人類には今ようやく、中心の上昇線（アセンションの柱＝自分軸）が見えてきた？！
自身が目指すのは、**宇宙の究極の愛の源“根源太陽母神”**です！
（2011 年にハムが登ったのは、三位一体図の中心線でもありました。^^）

『神智学大要』からの抜粋です。
「太陽神は“神の心の世界”の中で、未来の太陽系となる原型を創造し、その他のあらゆる原型を創造し、
その進化の行程を定め給うた。次には、その経綸を宇宙間の中で運行するために、ご自分の第三側面すなわち、
“力―質料”としての『第三ロゴス』を通じてお働きを始められた。」
非物質界（コイロン、空）の中に、神は自分のエネルギーを注ぎ込み、それは無数の泡のように見えるが、
一つ一つが神の第三側面の意識＝光の点であり、この泡が螺旋状に組み合わされ、
より複雑・精緻に進化して出来た世界が、私達の住む物質世界です。
私達の周りにある物質は、単なる“物”ではなく、第三ロゴスの意志の力によって存在している
“神（意識）”そのものであることが記されています。

このようにして第三ロゴスによって形成された七界層の中で、今度は第二ロゴスによる次のお仕事が行われる。

第二ロゴスのエネルギーは、本質的には、生命―形態（形態とは、鉱、植、動物および人間の種々様々な形の体をいう）といった方が一番ふさわしい。このエネルギーで、第二ロゴスは七界層の質料にいわば入魂し、「生命」という、あの神秘な性質を持った様々な形態を造り上げることができるようにする。

かくしてこの「生命」は、各界層の質料によって、種々様々な形態を形造る。これらの各形態は、その内なる生命（実は第二ロゴスの生命）が、その形態の中の質料を維持している間だけ存続する。

ここで初めて誕生、成長、老化、死滅という現象が始まる。

形態は、実は第二ロゴスの生命がその形態を通じて、もろもろの業をしなければならないから生まれるのである。

――――

形態は第二ロゴスがその形態を再び質料の海に返して、進化してゆく生命に一層の成長と真我顕現に必要な体験をさせることのできる、より新しい、より善き形態を造り出す目的をもって、その生命を全面的に撤収するために死ぬのである。

人は、神（ロゴス）が様々な業を成す為にとる、別の姿であり、永遠の命の一コマです。

人の死は、「終わり」ではなく、次の始まりを迎えるための、愛のシステムであることがわかります。^^

動物の群魂が形成され、ある特定の動物に個人化の機が熟した時、ここに初めて第一ロゴスのお働きが始まる。

すなわち第一ロゴスは、彼自身の一部（これをモナドという）をコーザル体の中に降ろし、ここに一コの魂を専有する一人の人間が生ずる。「造り手」に似せて造られた人間の、魂の進化がかくて始まる。

その進化とは、他ならぬ自分自身および同胞並びに、彼を取り巻く自然のあらゆる生命の中に、神性を見出すことである。死すべき肉体の中に宿る死せざる魂こそ、第一ロゴスの力の、物質界層における現れである。

人の誕生とは、どれほど希望に満ちた、神聖で、壮大で、素晴らしいものなのでしょう！！

宇宙という、大いなる生命連鎖の最先端に位置するのが人であり、

私達は、その全ての過程（生命）を慈しみ、大切にしなければならない…そうありたいと、強く思います。

三位一体図の中心に、神（ロゴス）から人へと降ろされている**“愛の御手”**が見えます。^^

神なる人＝“神人”（新人類）が誕生し、新しい宇宙（NMC）の協働創造がはじまる、今この時を、

第一ロゴスは、どれだけ待ち続けてきたのでしょう！

一なる至高の根源、目に見えない高波動の世界から物質界まで、全てが存在するこの地球こそが、神の準備した**“約束の地”**、究極の愛ですべてがワンネスとなった**“皇の星地球”**ではないでしょうか！

ライトワーカーは、地球を卒業して故郷の星へ帰る日を心待ちにしている…と言われます。

自身はこれまで一度も、そんな風に思ったことがなく、完全に過去を忘れている為（笑）とも言えますが

自身の故郷は“根源”であり、イコール“新地球”そのものだからなのでは？と。

＝どこにも行き場はなく、ここで踏ん張る?!しかありません！^^（だから未だに記憶喪失なのかしら…）

2024年12月21日（冬至）、地上セルフ（流美）は、

皇の星地球に住む神人類として、愛と光の新宇宙の協働創造者となる事を宣言致します！^^

（いつの間にか決意表明の場？となってしまいました…笑）　アニメに戻りまして。。。

宇宙ロゴスの三位一体力の顕れが、地上“白山（三山）”でもあり、場面は地上の白山へと移ります。

根源から旅に出て、悠久の宇宙史を生きてきた？なんて、想像もできなかった“ハム”が、

2011 年に根源母神（Ai 先生）と出会い、その夏、

根源の絆である“究極の愛の祈り”を杖に、白山頂上へと登りはじめると、一面を覆っていた

“白いハート？”が、雪解けを迎えた花の蕾のように、赤く色付いていったのでした。。。

地上白山の中心に、根源の愛と光の子供“ハム”が登った道＝**“究極の愛の意志”の柱**が通り

“根源の太陽”と“地球の中心太陽”がつながった事で、

世界が、“旧”から“新”へと、大きく、方向転換を始めたのです！

愛の女神の山である白山は、“究極の愛と神聖”を守る為に、長い間沈黙を保ち続けてきたとされ、

“白いハート”が、その深い愛の象徴でもありました…。

白山登頂後の Ai 先生との個人セッションを終え、そのレポートを提出しようと、ワードを開いたのですが、

次から次へと、描いた覚えのない“白いハート”が現れる？！という不思議な体験をしました。

それが、今この時を待ち続けてきた白山の女神からの、少し切ないメッセージであったと気付いたのは、

随分後になってからの事…、また、自身はその時たった一人で白山に登ったのではなく、

“敷かれていた黄金の道”（先哲の至誠によって踏み固められた道）を、

一歩一歩踏みしめながら進んだだけであり、受け継がれてきた神聖なる“愛のバトン”を、

旧から新へとつなぐランナーの一人でしかありませんでした。^^

白山登頂と同時に“御神事”がはじまる?!という、予想外の出来事もありました。

よろよろと頂上を目指す自身の前を、山伏風（修験？）の方々が、

「六根清浄！ろっこんしょうじょう」との掛け声を上げながら、楽々と登っていきます。。。

距離が離れても、何故か、時々振り返るようにして見守ってくれている…気がして、不思議でした。

到着を待ってくれていたかのように御神事がはじまり、自身も反射的に参加していました。（笑）

「根源の愛と光が、白山から∞に拡大していきますように！」との、祈りの道のりの、

締め！とも思える御神事となり、感謝と感動で胸が一杯になりました。（山伏さんの帽子はコップに変身します^^）

今から思えば、偶然にしては出来すぎ?!で、真に「宇宙（連合）のサポートだった！」と感じています！

その時のハム（地上セルフ）に必要だったのは、アセンションの知識やスキルではなく、

純粋な“愛”の意志であり、**“愛”が宇宙最大のエネルギー、創造の莫大なるパワー**とされるのは、

宇宙に存在するあらゆる高次のエネルギーと共鳴共振し、増幅・拡大させる事のできる

“核心の力”（究極の求心力）だからなのだと思います。^^

“新生レムリア”は、地底で静かに時を待っていた**“シャンバラ”＝日本神界の現世（うつしよ）**であり、

シャンバラは、日の本の黄金龍神（地球神である“国常立大神”化身）が住む**“龍宮”**とも言われます。

龍宮はおとぎ話では…との思いもあったのですが、天橋立にある“籠神社”と、その奥宮である

“真名井神社”を訪れた時、本当に存在するかも？と感じた出来事がありました。^^

神社へと向かう松並木が続く道（砂嘴）を歩いていると、突然、左方の海底がめくれ上がり？

海の底から、巨大な何ものかがコチラへと向かって来る?!と感じ、瞬間逃げかけた（笑）のですが、

違う？と思い直し水面に目をやると、そこには、限りなく透明で清らかな水と、美しく気高い松の木が、

寄り添うようにしてあり、不思議な感動と安らぎが、全身に響き渡っていきました。

何が起こったのか？その時は全くわかりませんでしたが、

「籠神社御祭神の彦火明命（彦火火出見命）は、竹で編んだ籠船に乗って“海神の宮”（龍宮）に

行った」との故事が伝わっている事を知り、その時、海の底の蓋？が開いて、

龍宮（シャンバラ）の美しく清らかなエネルギーが溢れ出した？と考えると、まさにそう思えてきます！^^

根源太陽と地球の中心太陽（核）がつながることで、日の本龍体が目覚めた？！

それは、国常立大神の核心に“根源太陽”が輝く、**“大国常立太神”**へのシフトであり、

空に仰ぎ見る太陽の如く、**“地球”自らが光を放つ“恒星”へのアセンション!!**ではないでしょうか！

国常立神と共にあった国津神々も、いよいよ表舞台へと現れ！真の“日の本”再興の時！！

“龍と鳳凰 ひとつなる”

日本の山々（神エのピラミッド）、大地に張り巡らされていた龍脈、根源の光のネットワークが、

“神人”一人一人の御魂（内なる太陽）と共鳴を起こす時、日本列島は光り輝く**“黄金龍”**となり、

地球（アセンション号）を牽引する火の鳥、**“鳳凰”**となって、天高く舞い上がる！！

神界、天界、地上界（人間界）が心を一つにして成し遂げようとしているのが、

中今の、究極のアセンション！！根源の光のアセンション！！なのだと思います。^^

“龍”と“鳳凰”のイメージを図に描いてみると、

龍は、直線で描かれた“ピラミッド”（力、男性性、水の象徴）、

鳳凰は、柔らかなタッチの“円（球体）”（愛、女性性、火の象徴）、という感じです。

物質が中心となって動いているかのように見える、これまでの社会は、ピラミッド社会であり、

“ピラミッドの頂点”には、ほんの一握りの存在しか、たどり着く事が出来ない…

誰もが、そう思ってきたのではないでしょうか？

意識を変え、視野を広げて見てみると、そこは宇宙という大きな円（輪）の中心であり、

全ての命が一つとなった**“根源の愛の源”**

＝一人一人の中にある、**“ハートと魂”**そのものであった事に気付きます。^^

誰もが、自分の心（ハートと魂）の声に耳を傾け、最高～の幸せを生きなければならない！

そこが、ピラミッドの頂点であり、ワンネスの宇宙の中心！！

中心から∞に広がる愛と喜びの輪を、“新地球”と呼び、“新宇宙”と呼ぶのだと思います。^^

あなたの中にいる“ハム”の声が、聞こえてきませんか？ か？

2024.12.21（太陽の復活の日＝冬至） ∞の愛と感謝を込めて 根源太陽の子供“ハム京美”